

全体会

パネルディスカッション

「三遠南信地域とスーパー・メガリージョン構想」

<登壇者プロフィール>

**牧野 光朗**

飯田市長 (SENA 副会長)

早稲田大学政治経済学部卒業後、日本開発銀行（現日本政策投資銀行）入行。同フランクフルト首席駐在員、大分事務所長を経て、2004 年飯田市長就任、四期目。現在、南信州広域連合長、長野県市長会副会長、全国市長会経済委員長、2015 年より経済財政諮問会議の専門調査会である経済・財政一体改革推進委員会委員。

パネリスト

**奥野 信宏**

国土審議会会長・公益財団法人名古屋まちづくり公社上席顧問・名古屋都市センター長

京都大学大学院農学研究科修士課程修了。経済学博士。名古屋大学経済学部教授、経済学部長、副総長などを経て、2004 年中京大学に勤務。商学部長、総合政策学部長、学校法人梅村学園理事・学術顧問などを歴任。2017 年から現職。国土交通省のスーパー・メガリージョン構想検討会顧問、内閣官房ナショナル・レジリエンス（防災・減災）懇談会委員 等。

**前田 忍**

公益財団法人 浜松・浜名湖ツーリズムビューロー 理事・事業本部長

1996 年北里大学卒業後、製菓企業や流通小売業、通販企業を経験。その間に名古屋商科大学経営大学院経営学修士課程（MBA）修了。その後、食のテーマパークの立ち上げを行なったのちに北海道のホテル及び静岡県島田市の大井川鐵道の事業再生を代表取締役として陣頭指揮を執る。2018 年 4 月より浜松市と湖西市の地域連携 DMO の理事・事業本部長に就任。岐阜県出身。

**神野 吾郎**

豊橋商工会議所会頭 (SENA 副会長)

1983 年慶應義塾大学商学部を卒業後、三井信託銀行株式会社を経て、1990 年中部ガス株式会社に入社。2002 年 5 月株式会社サーラコーポレーション設立と同時に代表取締役社長に就任。2018 年 2 月より中部ガス株式会社及びガステックサービス株式会社の代表取締役会長を兼務。2016 年 11 月より豊橋商工会議所会頭、東三河広域経済連合会会長、2019 年 6 月より一般社団法人中部経済連合会副会長。

**鈴木 康友**

SENA 会長 (浜松市長)

1980 年慶應義塾大学法学部を卒業後、松下政経塾に入塾（第 1 期生）し 1985 年に同塾卒業。ステラプランニング代表取締役を経て、2000 年に衆議院議員に初当選（2 期）。この間、経済産業委員会理事等を歴任。2007 年 5 月浜松市長に就任（現在 4 期目）し、2008 年マニフェスト大賞受賞。現在 4 期目。三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）会長、2011 年 12 月から指定都市市長会副会長。

全体会

パネルディスカッション

「三遠南信地域とスーパー・メガリージョン構想」

<パネリスト資料>

# スーパー・メガリージョン構想について

---

国土審議会会長・公益財団法人名古屋まちづくり  
公社上席顧問・名古屋都市センター長 奥野 信宏

---

## スーパー・メガリージョン構想

---

### ○リニア中央新幹線の開業を見据えた2050年の姿

- ・人口減少・高齢化の社会で持続的な発展を目指す
- ・全線開業後には人口7000万人に上る巨大な広域都市圏の誕生

### ○我が国の成長センターをつくる

- ・3大都市圏とリニア沿線都市が一体となって列島の成長を牽引
- ・移動の高速性で3大都市圏に分散した諸機能を一体化
- ・集積の利益を追求し、経済の成長を図る

### ○第2次国土形成計画で国家プロジェクトの位置づけ

- ・「骨太の方針2019」に「対流の促進」とともに記載

# 4つの目標

## 目標① 「日本の成長を担う」

- 東京・名古屋・大阪と沿線圏域が一体となって日本の成長を牽引
  - ・東京一極集中による成長からの決別
- 高度成長期の成長過程
  - ・4大工業地帯(京浜・中京・阪神・北九州)が成長のセンター
- 安定成長期以降
  - ・二眼レフ論 → 東京一極集中
- 東京一極集中の限界と打破
  - ・東京の役割の重要性
  - ・東京への過度の集中は国家リスク

## 目標② 「成長の成果を全国に波及させる」

- 高度成長期の成長過程
  - ・4大工業地帯の成果を全国に波及させるという強い意思
  - ・「国土の均衡ある発展」
  - ・先進国で最も地域格差の小さい国が実現
- 広域地方圏を単位とした「自立・分散・協調の国土」
  - ・全国の広域地方圏の発展が基本(国土形成計画(平成20年))
  - ・国の成長には成長のセンターが必要
- スーパーハブの整備がカギ
  - ・品川、名古屋、新大阪のスーパーハブの整備

### 目標③「圏域全体で人口増加の極になる」

#### ○リニア中間駅と沿線圏域への新たな期待

- ・大都市圏人口の分散居住等、新たな住まい方の提案
- ・リモートオフィス、職場の分散配置

#### ○沿線全域で出生人口の増加に貢献

- ・圏域の相対的に高い出生率
- ・減少する人口を各地で取り合い、百年の計にならない
- ・東京都区部・名古屋市・大阪市の出生率の大幅な増加を目指すべき

---

### 目標④「大規模自然災害に対する列島の強靱化を促す」

#### ○東京を大規模自然災害が襲うと国家リスクに直結

- ・圏域全体で政府・行政機能、経済の中核機能、文化学術のバックアップ機能を強化、あるいはこれらの機能を圏域に分散

#### ○「社会経済活動を停滞させないレジリエンスの確保」

- ・東海道の人流・物流のリダンダンシーの強化
- ・4層の鉄道網と4層の道路網
- ・名古屋駅周辺に集中する鉄道網の強靱化が重要

# 飯田市および沿線圏域への期待

---

○相模原市、甲府市、飯田市、中津川市、亀山市、奈良市付近

○住民の生活スタイルの変化

- ・大都市圏との関係が日常生活の中に入ってくる
- ・大都市圏との連携による多様な可能性
- ・近隣の大都市圏への通勤、週末の二地域居住、移住
- ・自然に囲まれたリモートオフィスや工場の立地

○政府・企業・大学・研究機関等のバックアップ機能・分散配置

○飯田市は信州と遠州の新たな玄関口

- ・中央日本の観光の玄関口
  - ・リニア駅と高速道路の結節
- 

---

---

## 三遠南信地域の観光資源と 訪日外国人の来訪状況

浜松・浜名湖ツーリズムビューロー  
理事・事業本部長 前田 忍

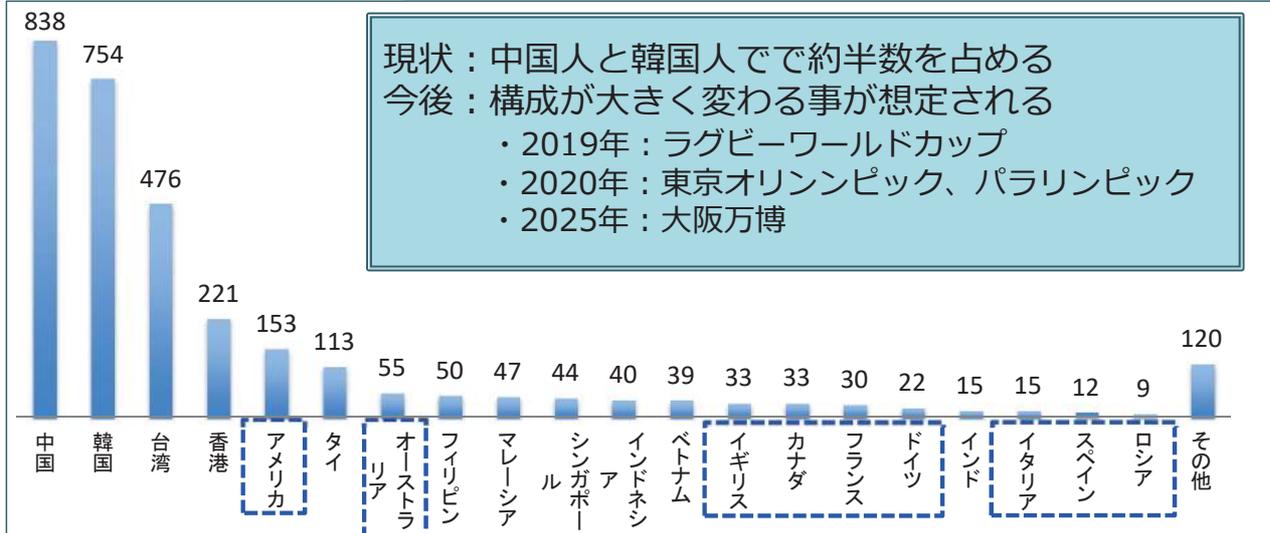


## 訪日外国人全体

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	前年 伸び率
観光客数 (万人)	622	836	1,036	1,341	1,974	2,404	2,869	3,119	121.8%
旅行消費額 (億円)	8,135	10,846	14,167	20,278	34,771	37,476	44,161	45,189	107.8%

## 2018年の国別訪日人数

単位：万人



出典：JNTO（日本政府観光局）

# インバウンドの経済効果

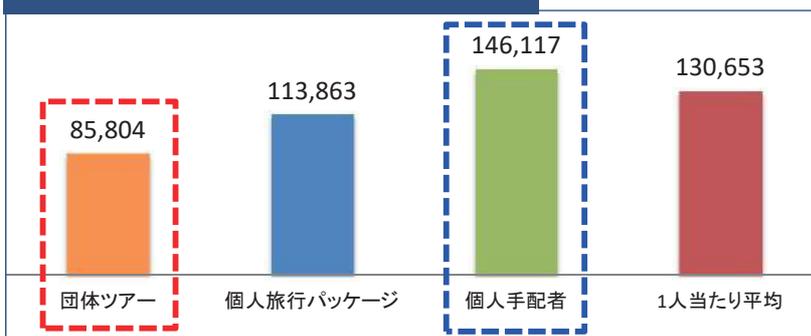


※出典：2016年総務省家計調査



日本人1名減を8人の外国人観光客でカバー

## 旅行手配別の日本滞在中の支出額



個人手配者は団体ツアーの  
1.7倍の支出

個人手配者 (FIT) の  
経済貢献が高い

出典：観光庁 平成29年年次報告書

## 観光庁が定める今後の外国人観光客の目標値

訪日外国人旅行者数

2020年：**4,000万人**  
(2015年の約2倍)      2030年：**6,000万人**  
(2015年の約3倍)

訪日外国人旅行消費額

2020年：**8兆円**  
(2015年の2倍超)      2030年：**15兆円**  
(2015年の4倍超)

地方部での外国人延べ宿泊者数

2020年：**7,000万人泊**  
(2015年の3倍弱)      2030年：**1億3,000万人泊**  
(2015年の5倍超)

外国人リピーター数

2020年：**2,400万人**  
(2015年の約2倍)      2030年：**3,600万人**  
(2015年の約3倍)

日本人国内旅行消費額

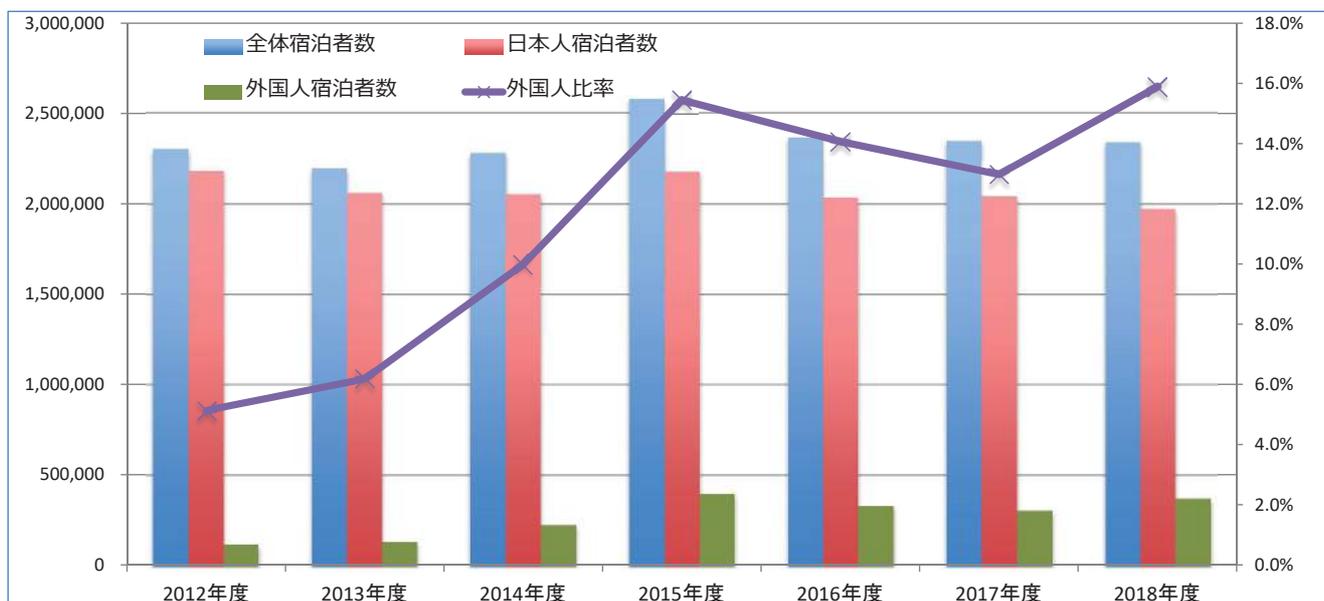
2020年：**21兆円**  
(最近5年間の平均から約5%増)      2030年：**22兆円**  
(最近5年間の平均から約10%増)

外国人の1人あたり消費額を30%以上伸ばす必要がある

出典：観光庁

## 浜松市の外国人宿泊者数

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
全体宿泊者数	2,303,845	2,197,762	2,281,448	2,580,294	2,367,766	2,348,217	2,342,703	99.8%
日本人宿泊者数	2,185,566	2,061,979	2,053,598	2,181,701	2,034,640	2,043,514	1,970,565	96.4%
外国人宿泊者数	118,279	135,783	227,850	398,593	333,126	304,703	372,138	122.1%
外国人比率	5.1%	6.2%	10.0%	15.4%	14.1%	13.0%	15.9%	2.9%



	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	前年比		構成比
中国	325,900	269,262	223,905	281,737	125.8%	中国	75.7%
台湾	8,240	8,753	12,563	12,953	103.1%	台湾	3.5%
アメリカ	-	-	5,940	10,674	179.7%	アメリカ	2.9%
イタリア	-	-	8,192	10,107	123.4%	イタリア	2.7%
インド	-	-	5,714	6,532	114.3%	インド	1.8%
マレーシア	8,641	6,982	6,908	6,470	93.7%	マレーシア	1.7%
韓国	3,507	2,547	4,271	4,376	102.5%	韓国	1.2%
インドネシア	6,389	5,344	3,886	3,923	101.0%	インドネシア	1.1%
ベトナム	4,840	3,510	3,667	3,867	105.5%	ベトナム	1.0%
香港	2,778	2,284	3,723	3,468	93.2%	香港	0.9%
タイ	3,446	2,648	2,983	3,064	102.7%	タイ	0.8%
シンガポール	1,581	1,795	1,447	1,983	137.0%	シンガポール	0.5%
その他	33,271	30,001	21,504	22,984	106.9%	その他	6.2%
合計	398,593	333,126	304,703	372,138	122.1%	合計	100.0%

※2012年79、2013、14年は75、2015、16年は91、2017年80、2018年112施設

## 2015年からの推移

- ・中国の爆買いブームが落ち着く
- ・富士山静岡空港の中国路線が約半分に縮小
- ・中国のゴールデンルートのツアーも縮小

## 傾向

- ・2018年は2015年に次ぎ実績伸長
- ・中国人が多くを占める傾向は変わらず
- ・イタリアやアメリカなど欧米人が伸長

# 三遠南信地域の観光資源

【感動体験南信州】  
心温まるほんもの体験

<コンテンツ>

- ・農業、農家体験
- ・食育
- ・アウトドアアクティビティ

【ほの国】  
海・山・川の豊かな実り

<コンテンツ>

- ・伝統の食文化
- ・歴史文化 ・手筒花火
- ・マリンスポーツ

【浜名湖観光圏】  
浜名湖からはじまる新たな物語

<コンテンツ>

- ・浜松パワーフード
- ・サイクリング ・マリンスポーツ
- ・産業観光（音楽・車・花・繊維）



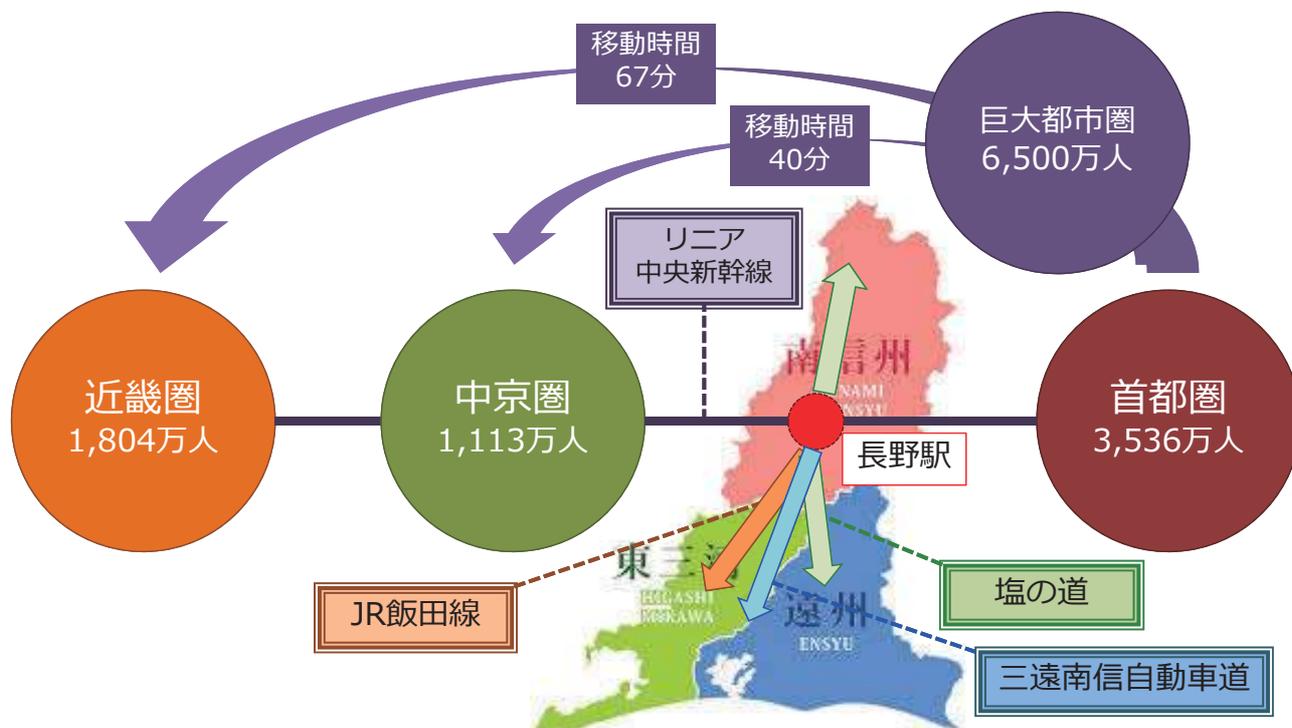
各ブランドを三遠南信ブランドとして国内外へ発信し誘客する

# 新ビジョンの基本方針3「風土」の観点と スーパー・メガリージョン構想との関係及び 広域観光連携の可能性

浜松・浜名湖ツーリズムビューロー  
理事・事業本部長 前田 忍



## スーパーメガリージョン構想



長野駅を起点に「通過型地域」から「滞在型地域」へ転換

### コト消費の重要性

1. 各地域には必ず「モノ」と「コト」の消費がある
2. 「コト」は現地に行かないと体感できない
3. 「コト」の魅力が無いとお客様は来てくれない

地域固有の物語を「磨き上げ」「ほんもの」にする

地域全体（面）での取り組みが重要

## 南信州のコト消費

### 地域住民とつくる「ほんもの体験」で感動を提供

#### 地域の思い

✓ 観光資源が乏しい通過型観光地

✓ 体験型観光には地域住民と観光客が一緒に体験することが重要

✓ 南信州の生活や産業を観光に活かしたい

✓ 体験観光のノウハウを求める視察や研修を増加させたい

#### 解決策

➤ 体験型商品を企画する専門組織を設置  
【株式会社南信州観光公社の設立】

➤ 地域住民がインストラクターや案内人として受け入れる  
【ほんもの体験】

➤ 地域住民との接点から多様な体験プログラムを生み出す  
【感動体験南信州】

➤ 「視察・研修」をプログラム化  
【視察研修の積極的な受入】

## 浜名湖観光圏の事業例

1. 体験型コンテンツの企画・PR

欧米豪向け商品開発、メディアミックス

2. 地域への意識醸成

キャッシュレス推進、通訳ガイド育成

3. 地域のサービスの品質向上

おもてなし規格認証、サクラクオリティ

4. 旅ナカの情報発信の整備

QRコード情報発信（多言語）

5. 広域周遊施策

手ぶら観光、公共交通周遊パスポート

## 滞在型地域の整備

### 今やる事

### 既存施設の整備と商品開発

観光のハブづくり

体験プログラム開発、観光人材育成

移動手段の観光化

JR飯田線の観光活用、塩の道サイクリング

滞在施設の整備

空き家、古民家を活用した民泊・農泊の推進

### 今後やる事

### 交通の整備と情報管理

交通の結節点づくり

リニア長野駅とJR飯田線の交通拠点の整備

2次交通網の整備

公共交通の広域周遊きっぷ（電車、バス、タクシー）

情報発信の基盤整備

地域内と地域外への戦略的な情報発信

## 「観光地域づくり」をミッションとするDMO

DMOとは 観光地域づくりの戦略策定と実行を通じ「地域の稼ぐ力」を引き出す法人

### 三遠南信エリアのDMO（7法人）

- |         |  |
|---------|--|
| 広域連携DMO | ・中央日本総合観光機構（長野県・愛知県・静岡県・富山県・福井県<br>石川県・岐阜県・三重県・滋賀県）  |
| 地域連携DMO | ・長野県観光機構（長野県）<br>・南信州観光公社（飯田市など14市町村）<br>・静岡県観光協会（静岡県）<br>・浜松・浜名湖ツーリズムビューロー（浜松市・湖西市）<br>・奥三河観光協議会（新城市・設楽町・東栄町・豊根村） |
| 地域DMO   | ・阿智昼神観光局（阿智村）  |

DMOが広域観光連携の主体者となる

# 観光振興の役割

